

神戸市北部農村地帯における築85年の民家の改修。夫婦と3人の男子、足がやや不自由な高齢の母の計6人の家族のための住宅である。

周辺は若年世代の流出が続き、水田地帯に民家が散在していた風景も変化しつつある。そのような状況に鑑み、外観は地域で踏襲されてきた形態を意識しつつ、新しい要素も少し付け加えようとした。クライアートの「住みつないでいく」という意思を地域に向けて力強く示したいと考えた。

瓦の勾配屋根を延長しながら繰り返された増築によって、軒先に近づくにつれ室内の天井高は低くなっており、それでも高さが確保できない部分では床が下げられて、複数の段差が生じていた。そこで、延長された軒先を切り、水平屋根に変えて頭上を開放することで、床の段差を座敷とそれ以外の2種類に集約した。

新たに生まれた屋上に屋根裏の子ども部屋から出られるようにした。屋根と同じ金属板を葺いたドアが自動車のテールゲートのように軽力で跳ね上がる。

古い構造材の荒々しい感覚や、窓の外に広がる自然豊かな風景が、子どもたちの記憶に刻まれ、この家がさらに永くあり続けるよう期待している。



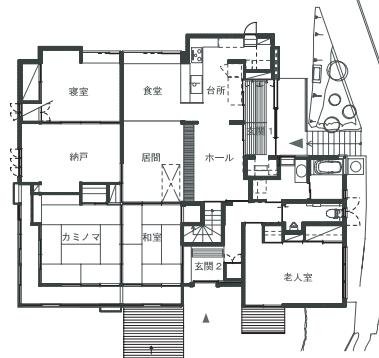
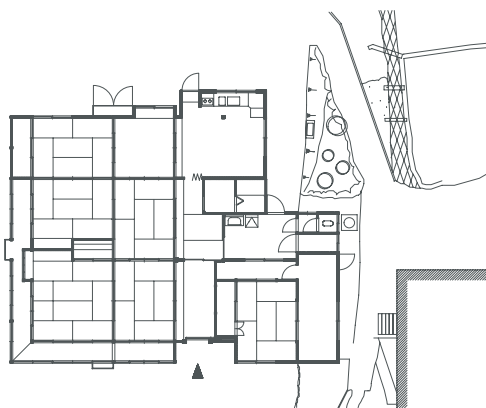
Before



After



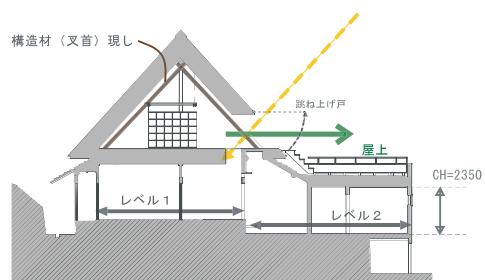
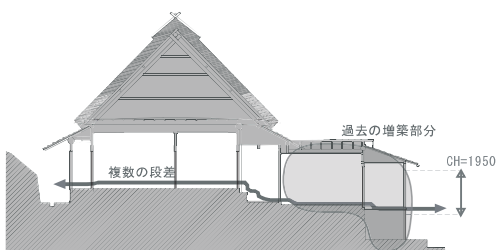
屋根裏の子ども部屋。  
壁・天井はランペニヤに木材保護着色剤塗り。床は構造用合板をうづくり加工し、着色・ポリウレタン塗りとしている。  
ロフトはS P Fのツーバイ材。  
質素な素材を用いることで、既存の構造材（叉首）の存在感を強調させた。



0 1 2 3 4 5 m



FIRST FLOOR PLAN



NORTH-SOUTH SECTION



子ども部屋は2つの本棚とロフトによって3人の男の子のための3つの緩やかな領域に分けられている。



階段室見上げ。



自然光を1階の居間に導くため、また居間から子どもたちの気配を感じ取れるよう、床の一部に強化ガラスを嵌めている。



屋根の一部が屋上へ出るためのドアになっている。



増築された軒先をカットして出来た屋上デッキ。



玄関ホールより台所を見たところ。



食堂より玄関方向を見たところ。



南東側外観夜景。  
外壁は杉板縦羽目板張り・木材保護着色剤塗り



和室より庭を見たところ。



食堂より玄関方向を見たところ。